

卒業式の「学校長式辞」(後編)です。

前号(第408号)に続き、卒業式の「学校長式辞」(全文)の後編をお届けします。

◆卒業式での「学校長式辞」—後編—◆ 「色彩の魔術師 ピエール・ボナール」

- さて、本校を卒業する皆さんに、3つのキーワードを贈ります。
- 1つめは、「ワクワク感」です。私は、「ピエール・ボナール」という画家を知った時、「ナビ派」って何だろう。何て豊かな色彩なんだろうと感じるとともに、新たな西洋絵画の世界を知った「ワクワク感」がありました。皆さんには、まだ知らない世界がいっぱいあります。これからの人生において「ワクワク」する瞬間がたくさんあると思います。その時です。ぜひ「アクティブラーナー」として、それを探究してください。そのことで、皆さんの世界はもっともっと広がっていくことでしょう。
- 2つめは「色彩」です。私は、大きく変化している今日において、大切なのは「アート」だと考え、AALを提唱し全国に発信しています。AALとは「アート・アクティブ・ラーニング」でしたね。これからの社会では、あらゆる場面で「アート感覚」を取り入れ、自らの「感性」を磨くことが大切だと考えています。中でも大切なのは、「色彩感覚」です。皆さんには、「色彩」を意識して、豊かで色鮮やかな人生を送って欲しいと思っています。
- 3つめは「友情」です。皆さんは、色相環という輪を美術で勉強したことがあると思います。色相環で反対側の色を「補色」といいます。補う色と書きます。補色は、お互いの色を最も輝かせる色の組み合わせです。画家は、「補色」をかなり意識して絵を描いています。例えば、ボナールの作品に赤い壁の前に座る緑色の服を着た女性の絵があります。実は、補色は、現在の世の中でも至る所に使われています。赤の補色は緑色です。セブンイレブンの看板をご覧ください。青の補色は黄色です。「Tポイントカード」をご覧ください。私は、補色の関係のような「友情」を大切にしたいと思っています。つまり、「お互いを輝かせる友情」です。
- 皆さんは、並木中等の6年間で、素晴らしい経験をしたと思います。本当に6年間、よく頑張りました。私から皆さんへのはなむけのキーワードは「ワクワク感」「色彩」そして「友情」です。これからの人生を、どうぞ幸せに歩いていってください。私は、みなさんの未来に、大いに期待しています。
- 最後になりましたが、ご来賓及び保護者の皆様のご健勝とご多幸、並びに卒業生の皆さんのご活躍を心からお祈りして、式辞といたします。

平成31年3月1日

茨城県立並木中等教育学校 校長 中島博司

